推 薦 図 書

学　科：　文学部　人間関係学科	氏　名：　細井 浩志
書　名：　科挙　中国の試験地獄	
著者・訳者：　宮崎市定著	
出　版　：　中央公論新社　1963	

〈推　薦　文〉

出版年は古いが、いまだに売れているロングセラー。とある女性アイドル歌手も推薦していた。（らしい。確認がとれなかったけれど）　日本や世界の国家公務員試験のルーツは中国の科挙です。科挙に合格すれば、名誉とお金が約束されていました。このため人々は栄冠を目指して受験勉強に勤しみました。しかし科挙は狭き門。数多くの悲喜劇が演じられ、あの手この手のカンニングが考案され、試験場の怪談まで生まれます。そうして合格して、果たして人々は幸せだったのでしょうか？　いっぽう、落第した受験生の人生はその後どうなるのでしょうか。そして科挙は社会の役に立ったのか？受験勉強に苦しんだひとも、入試が楽勝だった幸運なひとも、この本を読んで試験って何だろうと考えてみてください。人間理解の足しになることはうけあいです。文学部の方はもちろん、国家試験を受験しなければならない、食生活健康学科や看護学部の皆さんも、ぜひ一度お読みください。